
潮風の恋

福山愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

潮風の恋

【Nコード】

N0225C

【作者名】

福山愛

【あらすじ】

専門学校に入学する前に訪れた人工砂浜で、すれ違うように顔を合わせた亮と栞。同じクラスになり、距離がゆつくりと縮まり…。

二人の恋の行方と、数年後の完結編までを書きたいと思います!! ^

エ ^ !!

砂浜での出会い

都会の人工砂浜から、潮風が吹いてくる。栞は、先日ここに引越してきたばかりだ。

山梨の高校を卒業し、福祉を志して

この都会の、海の側に住むことになった。

引越しが済むと、両親は心配し涙を

見せながら帰っていった。

強がり言って笑っていた栞だったが

一人になると急に寂しくなり、自転車を漕いで

人工砂浜にやってきた。

遠くに東京タワーと、レインボーブリッジも

見えている。回りはカップルだらけだ。

栞は

「なんだかなあ」とつぶやき、自販機で買った

冷たいコーラをゴクゴクと飲み干し、しばらく

テトラポットに座り海やカップルを眺めていた。

少し離れた所に座っている、別れ話をしている雰囲気のカップルの会話が切々に聞こえてくる。

“どっちも好きなの”

“生めるわけじゃないじゃない！”など、穏やかでない内容だ。

女の声は甲高く、男は静かに話している。

いったいどんな顔だろうと、帰る間際に栞はさりげなく

二人を盗み見た。

女は金髪で派手な印象。non・no愛読者の栞とは

正反対のギャル風だった。

男を見たとき、栞は不覚にもトキメキを覚えて

流木につまづいた。

男はモデルのように長身で細身で、つまりは栞の好みそのものだったからである。

つまづいた栞を、男は見ていた。

栞は視線を感じ、頬を赤らめてパツと体制を立て直し走って砂浜を後にした。

専門学校に入学する二日前の、些細な出来事。

しかし栞にとってはこれが亮との初めての出会いだったのだ。

専門学校の入学式。

まだ友達もいなかった栞だが、地方から出てきている同級生も何人かいることが分かり、仲良くなれそうな雰囲気を感じて安堵した。

講堂での式典が終わり、教室に移動となる。

廊下を歩いていた栞は、前から見覚えのある男が歩いてきたのに気付いた。

海辺にいた男、亮であった。

（同じ学校だったんだ！）

栞は思わず目を反らしてすれ違う。

金髪の女はいないようだ。

なぜだか根拠もなく栞は安心したような気分になった。

（ヘンなの！）

自分でもばかばかしくなり、思わずクスツと笑って教室に向かった。

教室に入り、様々なオリエンテーションを受けた。

栞と亮は同じクラスであったのだ。

栞の斜め前の席。

長身の亮はちよつと狭そうに腰かけている。

栞はまたさりげなく観察をした。

少し長めの髪。茶色の綺麗な目。大きな手に丸い爪。膝に革のトランクを抱いている。

亮はどうやら栞のことなど気付いていないようだ。

恋愛経験がないに等しい栞は、これが恋の始まりなのだということにさえ、まだ気付いていなかった。

亮は、東京生まれの東京育ち。

先日は、先月別れた恋人から呼び出されてあの砂浜に来ていたのだった。話の内容は栞の聞いた通り

「子供が出来たが、亮の子供か今の彼の子供かわからない」という穏やかでないものだった。

彼女に新しい彼が出来たと一方的に振られた亮だったので大いに落ち込んだが、彼女の希望通りに堕胎の費用を

用意して渡した。彼女は微笑んで去っていった。

真偽はもう確かめようがないが、もしかして

俺は騙されたのか？と入学前の亮は悶々と悩んでおり栞の存在などまだ目に入ってはいなかった。

学校生活が始まり、栞はアルバイトを始めた。

小さなイタリアンレストランのウェイトレス。

他校の友人も出来て、新生活の滑り出しは快調だ。

陽気な店長と、友人に囲まれての楽しい仕事。

店長は栞を田舎っぺだとからかいつつ、仕事でない日にも食事を出してくれるなどかわいがってくれた。

店長は30過ぎだが、栞と同じ歳の彼女がいた。

彼女：千春は時々店にやって来ては栞たちバイトを

睨みつけ、店が閉まるのを待っていた。バイトたちは千春の陰口を叩きつつ、明け方までカラオケに行くのがお決まりだった。

バイトの中で、栞と一番気が会うのは悠美で、アルバイトも近かった為毎日姉妹のように

一緒に過ごした。悠美の出身は金沢で、時々夜行バスで地元の恋人が訪ねて来ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0225c/>

潮風の恋

2010年11月24日05時19分発行